

2018 年度 教育・福祉研究センター活動報告

2018年度教育・福祉研究センターは、本学専任教員を研究員とし、学外より客員研究員および嘱託研究員を委嘱して活動に当たった。

2018年度のスタッフおよび主な活動概要は以下の通りである。

2018 年度研究センター活動の概要

(1) スタッフ

センター長 福丸 由佳
運営委員 須川 公央、安倍 大輔、
廣澤 満之、井原 哲人
センター長委嘱運営委員 加藤 繁美
事務担当 企画調整室

(2) 研究員会議と運営委員会

研究員会議

2018年4月12日（木）教授会終了後
2018年5月10日（木）教授会終了後
2018年6月14日（木）教授会終了後
2018年11月8日（木）教授会終了後
2019年1月10日（木）教授会終了後
2019年2月14日（木）教授会終了後

運営委員会

2018年4月12日（木）12時10分～
2018年5月1日（木）12時10分～
2018年5月24日（木）12時15分～
2018年5月31日（木）14時15分～
2018年6月21日（木）12時15分～
2018年7月12日（木）18時00分～
2018年9月20日（木）12時10分～
2018年10月18日（木）12時15分～
2018年11月8日（木）12時20分～
2018年12月20日（木）12時15分～
2019年1月17日（木）12時20分～
2019年2月21日（木）12時15分～
2019年3月11日（月）12時30分～

(3) 「研究年報」第23号発行（2018年9月7日付）

編集委員 須川 公央、安倍 大輔、
井原 哲人、小保方 晶子、宮田 まり子
発行部数 180部

(4) 研究助成の実施

2018年度研究助成
申請12件
決定12件
決定者（申請代表者）および助成金額

①森山 千賀子ほか

「ケアを担う子ども（ヤングケアラー）についての小平市調査—具体的な支援方法を探る—」
〔35万円〕

②首藤 美香子ほか

「Childhood Studies（学際的「子ども期」研究）への接近—子ども・子ども期をめぐる近代的パラダイムの超克—」〔75万円〕

③仲本 美央

「乳児が育つ保育環境を保障する保育者の成長プロセスに関する研究」〔48万円〕

④小保方 晶子ほか

「現代社会における思春期・青年期の若者における生と性の関係性支援とキャリア教育—若草プロジェクト等の若者支援ネットおよび特別支援学校の養護教諭との連携から—」〔70万円〕

⑤源 証香ほか

「戦後、昭和の時代の保育を創造したリーダー

たちのライフヒストリー研究」〔45万円〕

⑥藤高 直之

「ファミリー・サポート・センター事業におけるニーズと支援のミスマッチに関する一考察～提供会員と依頼会員のマッチングシステムに着目して～」〔50万円〕

⑦高田 文子

「戦後幼稚園復興の研究」〔27万円〕

⑧杉本 豊和

「一人暮らし重度障害者の障害由来生活費用と介護支援コストの明確化に関する研究」〔18万円〕

⑨本山 方子

「幼児が遊びを「わがものとする」(アプロプリエーション)過程と思考力の芽生え」〔52万円〕

⑩能田 昂

「濃尾震災(1891年)と石井亮一・石井十次らによる子どもの救済・教育保護に関する研究」〔50万円〕

⑪増田 修治

「現在の「学級がうまく機能しない状況」(いわゆる「学級崩壊」)の実態調査と克服すべき課題—現在の「学級崩壊」とかつての「学級崩壊」との比較から課題を考える—」〔30万円〕

⑫佐久間 路子

「ロボットに対する肯定的・否定的意識および保育・教育への導入に対するニーズの検討」〔40万2千円〕

※研究成果報告会 2019年5月23日(木) 15:30
～17:10 (B21、E36、E37講義室)